

令和3年度クラブ概要調査結果

1 会員

○会員数

区分	未就学児		小学生		中学生		高校生		29歳		39歳		49歳		59歳		69歳		70歳		会員合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男性	女性
数	374	271	4,883	3,290	818	654	128	108	292	161	392	311	608	648	419	513	549	773	712	934	9,175	7,663
総数	645		8,173		1,472		236		453		703		1,256		932		1,322		1,646		16,838	
%	3.8		48.5		8.7		1.4		2.7		4.2		7.5		5.5		7.9		9.8			

○会員数の内、障がいがある方

区分	未就学児		小学生		中学生		高校生		29歳		39歳		49歳		59歳		69歳		70歳		会員合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男性	女性
数	3	2	16	6	2	0	0	0	3	1	2	0	5	0	1	1	1	1	1	2	34	13
総数	5		22		2		0		4		2		5		2		2		3		47	
%	10.6		46.8		4.3		0.0		8.5		4.3		10.6		4.3		4.3		6.4			

障がい者の把握		把握の方法									
有	無	○入会時に保護者や家族からの聞き取り、申告 ○障がい者手帳の確認 ○教室での行動言動把握 ○指導者からの情報 ○受付時に個別申請してもらって ○保護者からの相談、療育手帳など									
17	51										

2 指導者

○指導者情報

合計数	内有資格者	有資格者内訳		謝金支払		支払額		指導者研修の実施		年間開催回数		会員から指導者		指導者平均年齢		講習会等受講義務		県研修会希望	
		JSP0有資格者	その他有資格者	有	無	Max	Min	有	無	Max	Min	有	無	有	無	有	無	有	無
1,625	518	211	293	54	14	8,800	104	25	43	3	0	36	32	48.47	39	29	47	20	
受講させている講習 地域スポーツ指導者研修会、日本サッカー協会主催研修会、地域スポーツマネジメント講習会、赤十字救急法指導者研修、九州トランポリン連盟主催によるコーチ研修会、熊本市民スポーツ講演会、各種目で個別に参加、スポーツリーダーフォロー研修会、指導者スキルアップ講習、宇土市・市体協と合同で指導者研修を開催、天草市主催「社会体育クラブ指導者研修会」、小学校運動部活動社会体育移行に伴う研修会、水俣市主催「キッズスポーツ講習会」、ニュースポーツ研修や県交流会など、九州クラブネットワークアクション、県内クラブ交流大会、ライフキッズスポーツ等																			

3 リスク管理

○保険の加入

会員の保険			会員の保険			指導者・スタッフの保険			会員の保険		
強制	任意	その他	スポ安	chubb	その他	自己負担	クラブ負担	その他	スポ安	chubb	その他
57	11	5	21	37	10	22	47	3	21	37	10

○連絡体制

役員への連絡体制が整備されている	会員への連絡体制が整備されている
65	52

4 事務局体制

○クラブマネジャー、事務局員配置

常勤クラブマネ		非常勤クラブマネ		常勤事務局員		非常勤事務局員		行政担当者兼務		マネジメント資格		クラブマネ・事務局員		マネジメント資格有資格クラブ	
手当有	手当無	手当有	手当無	手当有	手当無	手当有	手当無	クラブマネ	事務局員	クラブマネ	アシマネ				
19	3	20	20	20	8	36	24	3	14	9	130	53			

5 クラブ運営状況

○会議開催

総会の開催	運営会議年平均回数	指導者との合同会議	役員平均年齢	部会の設置
64	6.4	有 52	54.6	有 30

○PDCAサイクル

運営改善	回答数	%	具体的な内容
毎年行っている	12	17.6%	クラブ内でのスタッフミーティング等で事業内容を整理。4半期ごとに現状を評価し理事会等にて協議修正を行い、通年サイクルも見直す。定期的に運営委員による運営委員会を開催し、教室、イベントの計画・報告・評価を行っている。既存教室の見直し、地域住民から要望された新規教室の立ち上げについて、またイベントの中止や見直し、新規イベントの開催などを話し合っている。毎月行っている会議にて、実施事業に関する反省を行っている。また、改善点についてまとめ、その後の事業に活かしている。年度の終わりに年度計画の検証を行う。決まった月に運営に係る会議と種目別代表者会議を行う。教室に関しては毎年ヒアリングを実施し、次年度開催を決定する。指定管理に関してはアンケート等による管理運営評価。各事業ごとに計画し実施。実施後、役員会などで事業報告を行う。問題箇所があれば、その都度話し合い、次回スムーズに事業が行われるよう修正する。定例会の中でスタッフから各事業の反省・改善点を聴取。次回の事業実施計画前に改善点の確認をし改善している。毎年、見直し討論している。会員減少傾向にある。役員も高齢化してきており、世代交代の時期かもしれない。運営委員による会議に行っている。次年度行事計画の際検討。各種行事実施後、次回計画を検討、修正。2ヶ月に1回会議を行っており、事業の反省を次に生かすよう努めている。
必要に応じて行っている	22	32.4%	月1回の運営会議にて事業報告、改善等話し合い事業に活かしている。各種イベントを役員で会議を行い、企画・立案し、イベント終了後に反省会を行い、改善点などを検討し次年度の取り組みへ活用している。各会議において、計画・実施・反省・改善等を協議し、次に繋げている。理事会等で協議・評価している。毎年総会の時にクラブの方向性などを検討してPDCAサイクルによる運営改善を行っている。運営会議で実施。イベント開催時、各競技が必要に応じて、年度が変わるタイミングなどに開催。月1回の運営委員会において取り上げ検討を加える。運営委員会などにて実施している。随時、サークル代表者、会員様からのご意見を必ずすぐ対応できるように理事LINEグループで話し合います。代表者会議で事業計画や予算の見直し、会員募集、広報を検討し、改善を図っている。種目代表者が必ず1名は参加する運営委員会で現状と問題点などを話し合い、今後の活動に生かすようになっている。各種イベント毎に会議を行い、次に活かす形をとっている。4月に役員会にて年度計画予定を決め、5月総会に於いて承認を得る。運営会議・四役会議にて反省・改善をその都度行うようになっている。理事会等において、事業の計画や反省、見直しなどを協議し、運営に生かしている。毎月の会議で検討している。規約改正や活動スケジュールの変更、コロナ禍における活動日及び時間帯の制限に伴う変更プログラムへの取り組みと、活動内容に対する小中学校との協議。行事の反省や年度の反省時。
行ったことがある	3	4.4%	毎月の会議内で必要に応じてイベント等の反省・改善を行っている。自己評価指標ツールを活用して実施のほかに、事務局・CM間では経営改善のMTを随時実施。
実施していない	31	45.6%	

○相談窓口

会員からの意見や要望窓口		指導者やスタッフからの意見・要望窓口		活動地域からの意見・要望窓口		ニーズ調査の実施	
有	%	有	%	有	%	有	%
62	91.2	64	94.1	47	69.1	17	25.0

○地域課題解決に向けた取組(複数回答可)

項目	回答数
健康増進	35
子育て支援	11
学校との連携	53
障がい者スポーツ	7
その他	17

その他内容
町内広報誌による呼びかけ。様々な年齢の参加者があり、若者と高齢者の年代を超えた交流の場となっている。小学校部活動社会体育移行に伴う各学童スポーツクラブの運営サポートを行っている。地域運動会への協力(役員、会員参加)。地域開催ふれあいの日の出店、協力を例年行っているが令和2年度はできていない。近くの熊本農業高校と「ジュニア乗馬クラブ」の協力。社会体育活動。行政・地域と連携した大衆イベントの開催。他団体との連携。宇城市の委託を受けスポーツ講演会を実施運営している。少しでも、総合型地域スポーツクラブへの理解・周知を図るため、ピーチバレー大会などを開催。指導者研修会へ、町児童運動クラブ指導者を招待。福祉課と連携し熊本地震の被災者が、災害公営住宅等へ入居し住まいの再建をした後、安心した日常生活と地域とのコミュニティーづくりを目的とした見守りやサロン活動を行っている。町生涯スポーツ推進策等について、行政への提言や連携した取り組み等を行っている。町スポーツ協会・スポーツ推進委員との連携と連携を行っている。校区行事への人材派遣。公民館事業への指導者派遣(体操教室・走り方教室など)地域ケーブルテレビ等と連携し、ビデオ制作などを行う。

○会費

年会費のみ	年会費+教室参加料・月謝等(事業収入)	教室参加料・月謝等のみ(年会費無し)	その他
30	41	6	月会費は一部種目のみ、大会参加料のみ、賛助会員

○年会費平均

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	シニア	全体平均	参加料平均
数	¥3,547	¥4,347	¥4,272	¥4,727	¥5,243	¥5,823	¥4,451	¥4,885	¥407

○会費の支払方法

窓口で支払	口座引き落とし	その他	※その他方法
57	4	20	教室やサークル毎で徴収、振込、郵便振替口座へ送金、大人はスタッフが集金、子どもは口座振替、現金聴収、カード支払い(うとスポカード)

○月会費(年会費以外の必要な参加料)

平均
¥848

○ビジター会費制度(会員以外の参加制度)

有	%
35	51.5%

7 事業

○定期プログラム(スポーツ系)

2	17	10	10	12	5	1	16	8	8	22	21	11	20	16	33	14	45	7	33	15	41	17	25
ドッジボール	体操	エアロビクス	ウォーキング	ダンス	ボウリング	ゲートボール	グラウンドゴルフ	ランニング	水泳	ヨガ	陸上競技	柔道	剣道	空手	野球	ソフトボール	サッカー	フットサル	バレーボール	ソフトテニス	バドミントン	テニス	ソフトテニス
56	45	3	1	15	14	12	2	6	5	12	1	6	4	1	1	1	10	1	17	2	1	4	
3	1	1	1	4	2	1	2	4	2	4	3	2	3	1	1	1	3	4	3	1	3	1	1
1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

○定期プログラム(文化系)

3	3	3	3	3	1	4	2	1	2	3	3	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1
英会話	絵画	書道	和太鼓	絵手紙	編み物	生け花	琴	歌謡・カオサ	茶道	園芸・花壇	ペン習字	脳トレ	ペーパーマーカー	手話	ハーブ	重唱唱歌	器楽	パソコン	クラシックバレエ	合唱	ウクレレ	ギター	手鼓(民族楽器)
3	3	3	3	3	1	4	2	1	2	3	3	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	
着付	フットボール	和楽器	陶芸	そろばん	イラスト	水彩画	クラフト	アロマ															
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

○短期教室開催

有	%
27	39.7%

○イベント開催

有	%
50	73.5%

○行政からの補助金

有	%	Max	Min
27	39.7%	5,950,000	40,000

○会費の減免

有	%
56	82.4%

○会場優先確保

有	%
48	70.6%

○行政との連携事業

有	%
25	36.8%

○企業との連携

有	%
21	30.9%

○地域課題解決会議

有	%	会議内容
25	36.8%	小学生クラブ環境整備検討委員会、町振興総合計画策定審議委員会、市健康づくり推進会議、町地域学校協働活動運営委員会、町中学校部活動検討委員会、町振興計画審議会、スポーツ推進計画策定委員会、村スポーツ推進委員会、スポーツ推進委員・町スポーツ協会・クラブ合同会議、市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会企画部会、区まちづくり協議会、熊本城マラソン応援会議、健康祭り会議、小学校社会体育移行会議、総合体育館建設に係る会議、町運動環境整備会議、市学童スポーツクラブ推進委員会、町スポーツ活動環境整備推進委員会

○行政委託

有	%	教育委員会	スポーツ振興課	他部局			
有	%	教育課	社会教育課	健康課	福祉課	町民課	まちづくり
34	50.0%	8	8	4	3	2	1

○自主財源

自主財源率平均
80.0%

○中学生対象

中学生対象	中学生対象プログラムの実施	中学校部活動へ指導者派遣	その他
28	21	3	4

10 クラブの課題

課題	全体に占める割合	取組内容・考察
会員の確保	%	新型コロナウイルス感染症の影響により会員数が減少しているため新規教室としてトランポリン等取り入れた。仕事をしている人が楽しめるプログラムを考える。広報強化、新たな教室の開設。行政への募集広報の定期的な依頼。年々小学生の会員数が減少傾向にあるので種目の見直し、イベントの開催等を行っている。広報紙、村内のお知らせ端末等を活用した周知。コロナ禍で会員の参加が少なくなったので、対策をしながらチラシ配りなどを実施した。種目を増やすことが優先新規会員が増えた場合、入れない可能性がある。種目の内容を見直し、マンネリ化を防ぎ更新率を上げる。子供の人口減少に伴い会員数の減少が見られる。もともと大人の会員を増やすため地域に総合型スポーツクラブがあるということを知ってもらうために広報活動をおこなう。会員募集チラシの配布を熊手の折り込みチラシにて地域に配布。コロナ禍で会員の申込が少ない。宣伝等は行っているが、感染が終らないと活動もできない。ホームページ、チラシの配布(学校・回覧板・まちづくりセンターの電子回覧板)、会員による紹介、町内回覧板等募集を図る。新会員の確保には校区内の回覧板、掲示板の利用しているが、会員同士の勧誘をもっと積極的にやりたい。昨年度中に学校を通じてパンフレットを配布し、クラブの周知を図り、会員の増加につなげる。コロナのため高齢者の活動が激減している。その分、小中学生、高校生が増えてきて助かっている。定期的にチラシを配布したり他団体の行事にてPR活動を行っているが増えない。コロナの影響で会員数が減っている。収まるのを待ち広報を出す。希望に応じて、常時の見学会や一日体験会を実施している。高校生から30歳代の参加が少ないため、その世代へのクラブ活動周知の方法を検討中。広報誌の配布、掲示板への掲示、クラブでカラーのチラシを作成して学校等に配布依頼を行っている。陸上スクールが週1から週2に変更して活動している。チラシ、ポスターの配布、町広報誌への掲載など。一般会員が少ないため、会員獲得を図る。新規種目の検討。行政の生涯学習講座を融合する話し合いを持つ。小中学校へのチラシの配布。コミュニティセンターや近隣のスーパーにチラシを置かせて貰っている。次世代の会員を確保する為に発表会を開催する。市内小中学校にパンフレット配布。クラブのPRの充実。学校への周知、広報誌、村HPへの掲載、クラブパンフレットを作成し、全戸配布。プログラムを増やし、会員増強する。大人の会員確保に向けて教室内容の充実をはかる。村民向けにはあるが、事業を行う際は周知している。活動等の発信を通して新規会員を募る。定期的な募集。中学生対象プログラムの検討や、高校生対象のビジター会員制度の検討。totoの助成により広報誌・チラシ等を配布出来ているが助成後が心配。小学校との連携・部活動のサポート。
42	61.8%	
財源の確保	%	会員増による会費収入増、各種事業の実施。新規事業として委託事業ではあるが児童クラブ運営をR3年度から実施。村の補助金を受けられるのも今年度で最後(予定)。事業拡大は必須だが、村から多数の委託事業を受けたい。敷地、自主事業の展開。自主事業を増やす必要がある。収益事業を行うなど。参加費のみで運用。教室や短期プログラムを行い、事業収入を増やす。安定財源の確保を図る。現状は会費・物品販売のみでの収入。会員の会費収入だけでなく、事業収入の拡大を担って今後の運営を工夫している。事業収入の増加を目指す。会員が確保できないので必然的に財源も確保できない。会費が比較的安い設定で収入源に限られるため、寄付金等の他収入を確保したい。協賛企業を募る。補助金や委託業務、会員及び賛助会員の年会費で財源を確保している。会員対象の物品販売も計画中である。自主事業の拡大。イベント開催による収益確保。新たな事業の実施。補助金やイベントなどで集める。会員を増やすために、イベントを充実させ、収益も上げる。小学生の参加に伴い保護者同伴による参加費増を図る。会員の確保が課題。サポーター広告の募集。村からの手厚い補助金。会費等の見直し。行政との連携 企業協賛募集。一般企業、スポンサーの確保。totoの活動助成が終了し今後の財源確保を検討中。会員の拡大・委託事業の実施。
30	44.1%	
指導者確保	%	指導者の高齢化に伴い、若い指導者の確保。クラブ活動の指導者を確保の為、料金等の見直しなど検討予定。地域住民の巻き込み。体協関係者及び現各種目指導者へ確保の呼びかけ。市体協との連携や地域の方の協力。町体育協会との連携。大人対象のクラスを増やし、指導員を育成。種目を増やすための指導者の育成。近隣市町村から指導者についての情報収集。一部の指導者に負担集中しないよう、次世代指導者の育成は常に必要。可能だが、参加者(会員)が少ない。地域の中から人材を発掘して、その趣味や特技を生かせる場を提供する。地域住民、会員や子ども会員、保護者とのコミュニケーション。会員やジュニア会員の保護者で競技経験があるものを講習会などに参加させ指導者として育成する。また、人材バンク等を使い、地域の指導者を探す。校区での指導者募集の広報。広報活動の徹底。地域体育協会や各プログラムに依頼。指導者不足の懸念があるが、現在の人数以上に謝金を支払う財源がないため、ボランティアを募っている。口コミや町内回覧板等でPRする。会員のなかから指導者になる人を増やせるようにする。種目協会との連携を強化。指導者バンクの活用。様々な種目の指導者を確保することにより、事業の拡大を図る。町事業によるスポーツリーダーの育成。地域の体協とネットワークを強化し、人材を確保する。学生の登用。
41	60.3%	
次世代スタッフの育成	%	新入社員として大学新卒者を雇用した。今後も引き続き中堅社員となるスタッフを育成する。ジュニアの保護者をスタッフ・評議員として参画できるシステムづくりを構築する。若手スタッフの募集を図り有能な人材を確保し、クラブの安定的な経営を目指す。次世代スタッフ自身の周囲の人を巻き込むよう指導。校区内のスポーツ推進委員をスタッフに取り込む。会議や研修会へ分担任で出席する。今後のクラブ運営に積極的に加わる人材を育てていきたい。定期的な運営委員会で指導者と連携し、次世代のスタッフや指導者の養成・確保に向けて情報共有している。若い世代へ積極的にアプローチ。大学と連携をはかる。保護者よりクラブ指導者として希望者を募っている。スタッフミーティングへの任意参加など。行政主導のクラブ運営から自主運営のための、人材の確保・育成。若手が興味を持つ教室作りから。
29	42.0%	
クラブの周知・啓発	%	行政と連携したイベントや教室の実施。町広報誌の記載・チラシの配布。ホームページ、SNS等を利用したクラブの周知・啓発には課題がある。(事務局人材補充・スキルアップ必要)市広報、HomePage、定期的な広報誌の作成(回覧板)とホームページの制作を行う。ホームページ、チラシの配布(学校・回覧板・まちづくりセンターの電子回覧板)、会員による紹介、小学生に種目プログラムを配布し、参加を呼び掛ける。クラブの周知・啓発には広報のあり方を見直し、積極的に働きかける工夫をしたい。そのため若いスタッフを育てたい。SNSや広報誌を利用して活動内容の周知。まだ校区内での総合型クラブの認知度が低い。校区体育協会、校区行事でのクラブイベントの紹介や、一言PRを行っている。SNSを利用して周知している。各種団体の会合でクラブ紹介の時間をもち周知している。月に一度、新聞チラシコーナーを設けクラブの周知をしている。主催のイベントを増やし、特色を生かす。ホームページを刷新し周知を行っている。町の広報紙などにより、周知及び啓発活動を進める。地域のラジオ番組へ指導者・事務局より出演。パンフレット・チラシの配布や広報誌への掲載をする。誰もが気軽に参加できるイベント(大会)や、短期教室等の開催によるクラブの周知等を図る。
25	36.8%	
他団体との連携	%	行政や社協と連携し、子どもや高齢者向けの運動指導。隣接地域の総合型地域スポーツクラブと連携し、互いに教室等を補い合うことが必要。(町外から教室参加受入を行っている)地域に点在する公的(行政等)機関との連携模索中。個々のスクールで連携を持ち、合同練習会の開催。他団体にない種目を連携し、計画していきたい。体育協会(種目協会)やスポーツ推進委員等との連携強化。校区体育協会・スポーツ推進委員等。
8	11.8%	
事業の拡大	%	新たな事業を数々の間に取組みなければならない。今後、教育委員会と協議が必要。各種目の大会の実施や種目を増やしていく。施設管理(漏水施設設備管理業務)などを本年度より開始。まちづくりセンターやUEKI・レクリエーション協会と連携をし、さまざまな事業を行う。文科系を含む、時代に応じたプログラムの構築。高齢化に伴う、世代交代。種目数を増やし、会員増に繋げていきたい。行政の社会体育係が受け持つ業務を指定管理業務の中に引き受け、専門員を確保する話し合いを持つ。成人、高齢者向けの教室の拡充。新しい教室の導入
13	19.1%	
その他	%	白水地区の小学校統合に伴い、旧白水小学校を利用したいと要望しているが、まだ先が見えず…。市・財政の位置づけ 体育協会等への働きかけ。行政担当者の無関心から悩んでいます。
6	8.8%	

11 新型コロナウイルスの影響

〈クラブの課題〉※抜粋

会費収入に関しては、200万円ほど収入減。
活動自粛期間の会費をどう対処するかという問題。
コロナワクチン接種会場にスポーツ施設が使用されることによる会場不足。
連絡が全ての会員に周知する方法。
新規会員が少なくなった。
自身で運動を行う子どもと行わない子どもとで、2極化が進んだ印象がある。
集まってる会議が出来ていない。
医療従事者の方や仕事関係で自粛している方がおり、会員登録数は減っている。
単発で参加する人が増えて、会員になる人数が増えない。
地域のいろいろな施設を活用できる工夫をしたい。
学校夜間開放管理業務に関する委託費が120万ほどの減収となった。
イベントや他主催の大会への参加ができないため、練習活動のみとなっている。
学校体育館が小、中学生だけの利用となっているため場所の確保に困っている。
年間を通して使用できなくなった施設も出てきて教室閉鎖になったものもある。

12 各クラブからの相談

〈内容〉

クラブ事務局の仕事をなかなか続けられる人材がない。(条件面、業務内容面等)
クラブハウスをつくりたい。廃校を利用したいが行政の動きを待っている状況。
指導者の確保について情報が欲しい。
会員確保のための術が分からない。
クラブマネージャーの育成に関する情報提供。スタッフを集めるための手段を教えてほしい。
活動場所の確保。
クラブハウスを学校に作りクラブ間の交流の場にしたい。
自宅で、SNSを利用して行える事業を考えたい。
委託事業や助成金の申請をしたくても、書類が難しく申請が出来ない。
小中学生や高校生が多く参加してくれるのは助かるが、コロナのことが心配である。
学校校長以下先生方の、総合型における役割及び活動に対する認識が全く欠けてい
財政定期支援に関する情報提供を求めている。
中学校の部活動がなくなった時、クラブとしてどの様な動きとなるのか。
行政主導であるため、自主運営の方向性を見いだしたい。